

# 米国の弾道ミサイル防衛見直し(BMDR)報告書(概要)(1)

(Ballistic Missile Defense Review Report) (2010年2月1日公表)

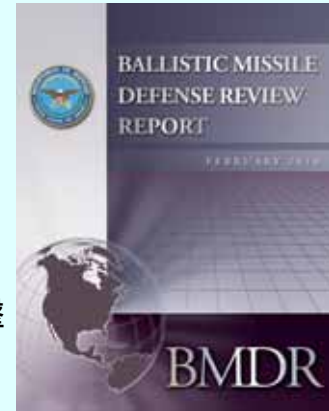
## < 弾道ミサイル脅威 >

弾道ミサイル脅威は、質と量の両面で拡大。

米国本土に対する大陸間弾道弾(ICBM)の脅威としては、北朝鮮とイランの動向に注目。ロシアと中国による米国本土への弾道ミサイル攻撃の可能性は極めて低く、米国のBMDの重点ではない。

一方、北朝鮮、イラン、シリアなどによる、他の地域における米軍及び同盟国・友好国を攻撃できる短・中距離の弾道ミサイルの開発は進展しており、明白な脅威。

また、中国の弾道ミサイル能力の発展による中台の軍事バランスの傾斜や、非国家主体によるWMD・ミサイルの拡散等を懸念。



## < 戦略的・政策的フレームワーク >

限定的なICBM攻撃の脅威から米国本土を防衛。

他の地域において短・中距離弾道ミサイル攻撃の脅威から米軍及び同盟国・友好国を防衛。

試験での検証、財政面での長期的な持続可能性、脅威の変化に対応可能な柔軟性を重視。

国際的なBMD協力の拡大を追求。

## < 米国本土の防衛 >

米国本土については、現在計画中の30基のGBI(地上配備型迎撃ミサイル)により、北朝鮮やイランの大陸間弾道弾(ICBM)に対処。

イラン等からの攻撃を念頭に、欧州に新たなセンサーを配備。

将来の不透明性に対応するための研究開発を継続。

# 米国の弾道ミサイル防衛見直し(BMDR)報告書(概要)(2)

(Ballistic Missile Defense Review Report) (2010年2月1日公表)

## <他の地域における脅威からの防衛>

弾道ミサイル脅威の拡大に対して、米国のBMD能力は量的に不十分であると認識し、BMDへの投資を拡大。  
「BMD能力を段階的に向上させるアプローチ」(PAA: Phased Adaptive Approach(注))の考え方を採用。

(注)昨年秋に発表された欧州BMD配備計画において初めて採用。

- 各地域の状況に合わせて、BMD能力を段階的に向上。
- 同盟国との協力の下、地域における同盟国・友好国に対する攻撃の抑止を強化。
- BMD能力には、機動性・再配置可能性を重視。

## <国際協力の強化>

各地域において、開発・調達・配備・運用にわたる国際的なBMD協力の強化を図る。

- 欧州: PAAによりNATOと協力。
- 東アジア: 日本は最も重要な国際的BMD協力のパートナーであり、日米のBMD協力は、米国が追求する協力関係の極めて優れた例。なかでも、SM-3ブロック2Aの日米共同開発は、最も重要な協力。韓国・豪州とも協力を追求。
- 中東: 友好国との協力を強化。
- ロシアともBMD協力を追求。ただし、米国のBMDが制約を受けることは拒絶。
- 中国とは戦略的対話を追求。

## <BMD関連プログラムの管理>

試験による検証と財政面での長期的な持続可能性を重視。